

無核性ブンタン「瑞季（みずき）」の紹介

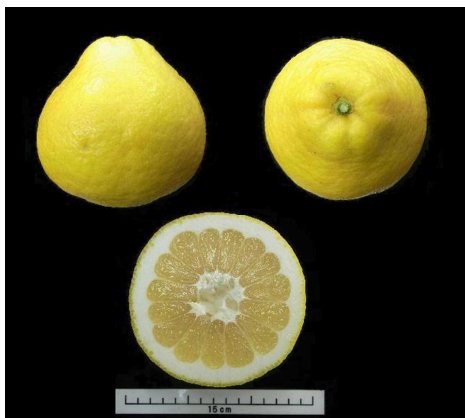


写真1 「瑞季」果実
(水晶文旦×サザンイエロー)



写真2 「瑞季」着果の様子

表1 カンキツかいよう病発病度

品種名	年次	調査月	発病度		
			春葉	小枝	果実
瑞季	2016	8月	0.0	0.0	0.0
		10月	14.3	0.0	0.0
	2017	8月	0.0	0.0	0.0
		10月	4.8	0.0	0.0
土佐文旦 (対照)	2016	8月	14.3	9.5	4.8
		10月	14.3	9.5	9.5
	2017	8月	9.5	0.0	0.0
		10月	9.5	0.0	0.0

注) 発病度 = $\{7 \times (A) + 5 \times (B) + 3 \times (C) + (D)\} / \{7 \times (\text{調査樹数})\} \times 100$

A: ほとんどの葉(枝・果実)が発病し、1葉(枝・果)当り病斑数4個以上

B: 病葉(枝・果)が樹全体に分布するが、約半数の葉(枝・果実)が発病して1葉(枝・果)当りの病斑数が1~3個程度のもの

C: 病葉(枝・果)が樹全体に分布するか、または部分的に病葉(枝・果)の集団が認められ、病率はほぼ1/10未満であるもの

D: 一見無病に見えるが、よく見ると病葉(枝・果)が散見されるもの

E: 病葉(枝・果)が全く認められないもの

(育成系統適応性検定試験・特定検定試験調査方法(2007年3月))

(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹試験場

表2 「瑞季」の果実特性

品種名	収穫日 (年/月/日)	果重 (g)	果形 指数	着色	果肉歩合 (%)	種子数		糖度 (° Bx)	クエン酸 含量 (g/100g)	す上がり
						完全	不完全			
瑞季	2017/12/13	502.7	107.0	10	56.4	0.0	10.0	9.1	2.24	無
	2018/1/15	541.6	108.9	10	55.2	0.2	32.4	9.5	1.88	無
	2018/3/15	452.4	104.1	10	50.5	5.6	33.2	10.0	1.21	甚
河内晩柑 (対照)	2017/12/13	381.3	106.0	8	60.3	14.2	2.0	8.3	1.45	無
	2018/1/15	341.9	104.6	10	63.2	14.8	12.6	8.3	1.48	無
	2018/3/15	396.8	105.6	10	57.6	22.0	7.0	8.9	1.26	少

注) 完全種子: 正常に発育した種子、不完全種子: 受精しているものの発育が完全種子に比べて劣る種子

ブンタンは本県の特産カンキツですが、カンキツかいよう病に弱いことや種子が多いことが欠点です。そこで、これらの欠点を補うために、広島県と国立大学法人京都大学が共同で育成した新しい品種「瑞季」について、果樹試験場では農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(課題番号: 27035C、平成27~31年)により栽培試験を実施したので、特性を紹介します(写真1、2)。

「瑞季」のカンキツかいよう病発病度は、「土佐文旦」と同じか低くなりました(表1)。果実特性は、完全種子数が極めて少

なく、12月から3月の平均糖度は9.5° Bx、クエン酸含量は1.78g/100gで糖酸ともに「河内晩柑」に比べて高くなりました(表2)。また、果皮に苦味が少なく皮ごと食べることができます。このように、「瑞季」はカンキツかいよう病に強く、種子が少ないという特性があり、本県での普及が期待できます。しかし、3月まで樹上に着果させると、凍害によるす上がりが発生する危険性があるため、今後は本県における収穫適期および早期収穫果実の貯蔵技術の開発に取り組んでいきます。

(果樹試験場 西森 空 088-844-1120)